

第三十五號國稅收納簿並ニ隨時收入諸稅收納簿ニ押捺スヘ  
 キ領收ノ認印ハ明治四十四年縣訓令第五十三號第二條第三  
 項ノ印章ヲ以テシ領收月日ノ記入ヲ省署スルニ於テハ大ニ  
 手數ヲ減シ領收月日ヲ確實ナラシムヘク候ニ付該印ヲ使用  
 セシムルコトニ致度存候ニ付御意見承知致度候  
 大正五年一月十日 地第四四〇〇號 內務部長 各郡市長宛  
 (內務省通牒發地第七號)

市町村財務規程第二十二條ニ依リ市町村金庫ヲ置キタルトキ  
 ハ市町村ニ對スル國庫ノ交付金ヲ受領スルハ同條ノ規定ニヨ  
 リ市町村金庫ノ權限ニ屬スミ義ニ有之其現金ヲ一旦收入役ニ  
 於テ受領シ更ニ之レヲ金庫ニ拂込ムモノニハ無之金庫ニ於テ  
 受領スヘキ旨其筋ヨリ通、次第モ有之候條御了知相成度候  
 大正五年三月六日 地第九八三號 內務部長 各郡市長宛  
 (內務省通牒秘第五五號)

地方振興策トシテ國又ハ地方公共團體其他ニ對シ鐵道ノ布設  
 港灣ノ修築河川ノ改修其他諸種ノ施設ヲ促サン爲メ有志共同  
 シテ之レカ運動事務所ヲ設ケ事務費並ニ運動ニ要スル費用ヲ  
 地方公共團體ノ補助ニ請ハントスル向アル場合ニ於テ公共團  
 體ハ假令補助其他何等ノ名義ヲ以テスルモ右等ノ經費ヲ支出  
 スルハ不可然趣其筋ヨリ通牒有之候條御了知相成度將來ノ爲  
 御參考

●大正五年十二月十二日 地發第三九九號 內務部長各郡市長  
 宛 (內務省通牒秘第二四三六號)

公共團體ニ於テ水道其他ノ土木事業起工又ハ竣功記念ノ爲メ  
 關係者ヘ公費ヲ以テ金品ヲ寄贈スルハ不可然趣其筋ヨリ通牒  
 有之候條爾今右様ノコト無之様豫メ御諭達相成度候  
 大正六年十二月三日 地第四一六七號 內務部長 各郡市長  
 宛 (內務省通牒發地第二四四號)

本年法律第二十二號ヲ以テ產業組合法中改正相成候ニ付信用  
 組合ノ定款ノ定ムル所ニヨリ公共團體ノ貯金ヲ取扱フコトヲ  
 得ルコト、相成候就テハ町村ノ基本財産積立金タル現金ヲ信  
 用組合ニ預ケ入リテハ當該信用組合ノ規定ニヨリ貴官ニ於テ之レヲ  
 許スルニ當リテハ義町村等ノ規定ニヨリ貴官ニ於テ之レヲ  
 佳良ナル場合ニ限リテハ當該信用組合ノ規定ニヨリ貴官ニ於テ之レヲ  
 追テ郡ノ積立金ノ預ケ入リ付テモ本文同様ノ趣旨ニヨリ御  
 處理相成度又郡町村等ノ歳入出ニ屬スル現金ハ現行法令上  
 信用組合ニ預ケ入ル、コトヲ得サル義ニ付誤解無之様御注  
 意相成度候  
 大正九年一月二十日 地發第二八號 內務部長 各郡市長宛  
 ●基本財産蓄積ノ爲メニスル特別會計ニ關ス  
 從來市町村ニ於ケル基本財産蓄積ノ例ヲ見ルニ條例ニヨリ定











五、定メ前項ニ準シ統一スルモノトス。其ノ超過額ヲ買收スルハ町村  
 經濟ノ緩急ニ應ジテ必要ナルモノトス。其ノ全部ヲ  
 買收スルコトヲ要セサルモノトス。其ノ一部ヲ買收スルハ町村  
 町村費ヲ以テ買收シタルニ依リ部落ニ於テ收得スル金錢ハ  
 信用組合ノ設立、青年會集會所ノ建設其ノ他ノ公益事業ノ  
 出資ニ充テシメ濫リニ之レヲ分配スルカ如キコト勿ラシム  
 ルモノトス。

六、第四項第一號及第二號ノ出金ハ各部落民ノ資力(地價割  
 戸別割等)町村ノ狀況ニ依リ之レヲ定ム。一應シ一時ニ之レ  
 寄附セシムルカ若ハ町村稅トシテ不均一ノ賦課ヲ爲スル  
 ノトス。若シ一時ニ寄附セシムルハ賦課スルコト困難ナル  
 場合ニ於テハ適宜數額ニ區分シテ每期其ノ一部分宛テ寄附  
 セシムルハ賦課スルコトヲ得ルモノトス。但部落有財產ハ必  
 ス一時ニ其ノ全部ヲ提供セシムルコトヲ要ス。

七、前項ニ依リ不足額ヲ區分シテ出金セシムル場合ニ於テハ  
 其ノ出金ノ完了スル迄全部ヲ提供セシムルモノトス。其ノ基本  
 生、部落有財產ハ一部若ハ全部ヲ取得セシムルモノトス。其  
 八、部落有財產ハ一部若ハ全部ヲ取得セシムルモノトス。其  
 九、如キコト勿ラシムルモノトス。其ノ他ノ物權ヲ設定セル

一、モノアルトキハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ義務ハ總テ町村ニ於  
 テ之レヲ繼承スヘキモノトス。

一〇、他町村又ハ其ノ部落ト共有ノ關係アル財產ハ其ノ權利  
 ヲ町村ニ移付セシムルハ其ノ土地ヲ分割シテ全町村ニ提供  
 セシムルモノトス。

一一、部落有林野又ハ建造物ニシテ地上權若クハ賃借權ヲ有  
 スル場合ニ於テハ其ノ財產ト同時ニ權利ヲモ其ノ儘全町村  
 ニ引繼チ爲サシムルモノトス。

一二、部落有財產ニシテ事實未ダ町村長ノ管理ニ屬セサルモ  
 ノアルトキハ其ノ性質及關係ヲ調査シ此ノ際總テ町村長ニ  
 引繼チ爲サシムルモノトス。

一三、現ニ部落名義ノ財產ニシテ從來既ニ賣却若ハ讓與シタ  
 ルカ如キ形跡アルモノ其ノ證據及事項ノ明確ナラサルモノハ  
 此ノ際總テ部落名義ノ財產ニシテ其ノ實社寺若ハ個人ノ所有  
 タル證據ノ明確ナルモノハ精細ニ其ノ事實ヲ查覈シ此ノ際  
 總テ名義ノ變更ヲ爲サシムルモノトス。

一四、現ニ部落名義ノ財產ニシテ其ノ實社寺若ハ個人ノ所有  
 タル證據ノ明確ナルモノハ精細ニ其ノ事實ヲ查覈シ此ノ際  
 總テ名義ノ變更ヲ爲サシムルモノトス。

一五、部落有財產ノ統一ハ來ル四十八年限リ全部之レヲ完了  
 スルモノトス。

●四十四年二月八日付 森第二九號通牒  
 公有林野整理開發ニ關スル件



公野ノ整理開發ニ關シテニ曩ニ訓示相成候次第有之一  
 日モ之林野ノ整理開發ニ關シテニ曩ニ訓示相成候次第有之一  
 捷分タル林野ノ整理開發ニ關シテニ曩ニ訓示相成候次第有之一  
 有林野ノ整理開發ニ關シテニ曩ニ訓示相成候次第有之一  
 保之候條如此ハ割行上ノ困難ノ點少カラズト爲テ種々ノ目下ニ  
 有林野ノ整理開發ニ關シテニ曩ニ訓示相成候次第有之一  
 法ニ依テハ御勸相成度無シテ御留意ノ上ニ農務ノ方  
 内務兩官ヨリ通牒ノ次第モ有之候條可成速ニ整理ヲ期セラ  
 レ度右依命及通牒候也

第一、部落ノ事ニ屬シテハ自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 緊要ナル事ニ屬シテハ自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 勿論ナルモ之ヲ勸奨スルニ當リテハ廣ク一般人民ヲシテ  
 自治ノ事ニ屬シテハ自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 勸奨ノ方法ニ付テハ團體ノ講話會ヲ集メテ指導シテ之ヲ精  
 神ヲ吹込メテ之ヲ實踐スルニ當リテハ廣ク一般人民ヲシテ  
 沿其統一方ニシテハ御勸相成度無シテ御留意ノ上ニ農務ノ方  
 トニ應シテハ御勸相成度無シテ御留意ノ上ニ農務ノ方

(一) 置セシムルコトニ關シテハ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 之カ監督ヲ嚴ニシテ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 從之ヲ監督シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 テ之ヲ監督シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 クニ至リ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 ノ豫約ヲ爲シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 ケモノ事ニ屬シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 ナケテハ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 段ヲ保シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 層之カ監督ヲ嚴ニシ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 部落ノ事ニ屬シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 ナラシメ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 民ニ分テ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 提之ハ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 割若ハ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 Δルヲ要ス、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 從之ヲ監督シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 統一シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上  
 統一シ、自治ノ圓滿トハ林野ノ整理開發上



爲シシムルハ勿論ナリト雖モ從來部落民カ受ケツ、アリ  
 實シ又ハ產物ノ一部(副産物)如キ)ヲ交付スル等ノ特權  
 ナ與ヘシト同時ニ其林野ニ對スル保護其他特定ノ義務ヲ  
 負擔セシムル等地方ノ事情ニ應ジ適當ノ處置ヲ取ルヲ要  
 ス

(四) 植林シタル土地ヲ統一スルニ當リテハ植林ノ効績ヲ尊重  
 シ其ノ利益ヲ失ハシメサルコト  
 部落ノ曾テ植林シタル土地ヲ統一スルニ當リテハ可成其  
 植林ノ効績ヲ尊重シ部落民ヲシテ之カ利益ヲ失ハシメサ  
 ル爲メ適當ナル方法ヲ講シ以テ先覺造林ノ效果ヲ空フセ  
 サルコトヲ要ス

(五) 部落有林野ノ收入ニヨリ費用ヲ支辨シタル營造物ノ修築  
 維持ハ之ヲ市町村ノ經濟ニ移スコト  
 從來部落ノ負擔又ハ協議費ノ名義ヲ以テ部落有林野ノ收  
 入ニ依リ費用ヲ支辨シタル道路、堤防、用水路、溜池等  
 ノ修築、維持ハ林野ノ統一ト共ニ實際ニ不便ヲ感スルモノ  
 ノ外之ヲ市町村ノ經濟ニ移サシムル事ヲ要ス

(六) 各部落ノ提供面積又ハ其價額カ部落間ニ權衡ヲ得サルモ  
 ノアリテシメ調和計ルコトヲ得サル時ハ或ル時期特別ノ賦  
 課ヲ爲サシメ面積又ハ其價額カ部落間ニ權衡ヲ得サルモ  
 ノアルヘシト雖モ(三)乃至(五)ノ方法宜シキヲ得之カ調

第二

和ヲ計ルコトヲ得ヘク尙多少ノ懸隔ハ免レサルヘキモ統  
 一ノ自治上ニ及ホス利益ヲ悟ラシメ公共心ニ依リ可成全  
 部ノ統一ヲ爲サシムヘシ將又全然無財產ノ部落ニ對シテ  
 ハ其部落ノ實力ニ堪フル相當範圍ニ於テ或ル期間不均一  
 賦課ヲ爲サシメ以テ調和ノ方法ヲ講スルヲ要ス

以上各號ニ依リ部落有林野ノ管理區分ヲ爲サシムヘシ  
 ル時ハ次項ニ依リ部落有林野ノ管理區分ヲ爲サシムヘシ  
 部落有林野ノ統一トシタル林業經營トハ自ラ問題ヲ異ニシ統一  
 シタル林野ハ必スシモ總テ森林トシテ普通林業ヲ經營セ  
 サル可カラサルニアラス公有林野ノ内ニハ將來農用地  
 (開墾豫定地、芝草採取地、牧場、放牧地等)トシテ利用  
 スルノ適當ナリト認ムルモノナキニアラス故ニ其地ノ事  
 情ヲ斟酌シ必要ニ應ジ統一シタル林野ヲ將來森林トシテ  
 管理スヘキヤ否ヤノ區分調査ヲ爲スヲ要ス此管理區分調  
 査ハ市町村當事者ヲシテ適當ニ之ヲ按排セシムルハ當然  
 ノ事ニ屬スルト雖モ或ハ技術上ノ知識ニ乏シク或ハ徒ラニ情  
 弊ニ束縛セラレハ、考慮アルヲ以テ可成縣郡ノ官吏ノ派遣  
 ナ申請スルヲ要ス適當ニ林野ノ管理區分ハ左ノ標準ニ據リ查定  
 シ農地トシテ必要アル場合ハ格別トシ其ノ以外ニ在リテハ經濟  
 特別ノ必要アル場合ハ格別トシ其ノ以外ニ在リテハ經濟



- 上最有利ナル方法ニ依リ土地ヲ利用スルコトヲ原則トシ、若シ之ニ反スル年限ノ慣行アリテ俄カニ變更シ難キモ、ハ漸次此ノ原則ニ近カシムル方針ヲ採ルコト、
  - (二) 開墾地ノ他、果樹栽植地(田畑開墾ノ外、桑、茶、榛、楡、椿及柑、橘、其他果樹栽植地ヲ包含ス)ノ目的ヲ持續シ得ヘキ見込ノ地ヲ開墾シ、地ノ劃定スルコト、
  - (三) 前項開墾地ノ劃定スル場合ニハ、特ニ國土保安ノ關係ヲ精査シ、開墾ノ爲メ國土ノ安寧ヲ害スルノ虞アルモノハ一切豫定地ト爲サ、ルコト、
  - (四) 芝草採取地中ニハ、舊慣上慢然廣漠ナル山野ヲ占領シ、濫採ノ弊アル向、地中ニハ舊慣上芝草ノ生産量及需用額ヲ調査シ、尙將來ニ於ケル肥料飼料等改良ノ能否ヲ考察シテ必要ナル地域ニ查定スルコト、
  - (五) 一團ノ公有林野中各所ニ點々散在スル柴草採取地又ハ四圍森林ニシテ區域ノ據ルヘキモノナキ柴草採取地ノ如キハ、區域ヲ定ムルニ便利ナル處ニ畫定スルコト、
  - (六) 牧場及放牧地ハ、牧畜業ノ現狀ヲ調査シ、尙將來ニ於ケル牧畜業ノ發展及飼料ノ改良ヲ考察シテ必要ノ地域ニ查定スルコト、
  - (七) 前三號ニ依リ劃定シタル芝草採取地ノ牧場、放牧地等ハ、舊慣ヲ參酌シ、適當ナル方法ヲ定メテ利用セシムルコト、
- 以上各號ニ依リ、其管理區分ヲ了シ、市町村トシテ經營スヘキ林野ハ、團體財政ノ狀況ヲ斟酌シテ、速ニ營林計畫ヲ定メ、知事ノ認可ヲ得テ適當ノ施設經營ヲナサシメ、荒廢ノ虞ナカラシムヘシ、

第三、其他公有林野整理ニ關スル事項

- (一) 公有林野ノ内、事實上社寺ノ所有タルヘキモノアリ又ハ個人有若ハ共有ノ名義ニシテ其實公有タルサレハ、カラスルモノノ數カラザルカ、如シ如此モノ、此儘放置スルトキハ、遂ニ所有權ノ明確ヲ缺キ、延テハ公有林野整理上障害ノ因ヲ爲スニヨリ、改租當時ノ取扱者ノ生存其他沿革諸跡ノ亡滅セザル今日ニ於テ、速ニ訂正ヲ加ヘ、名實相添ハシムヘシ、但名義變更又ハ離權ノ場合ハ、處分前事實ヲ詳具シ、當廳ヘ打合セテ要ス、
- (二) 公有林野ニ於テ、元住民カ燃料トシテ小柴ヲ採取スル慣行ハ、前項芝草採取ノ慣行ト同シク、概ネ濫採ノ弊之ニ伴フヲ以テ、之ヲ整理スルコト、必要ナリト雖モ、速ニ之ヲ禁止スルコトハ、從來ノ關係上困難カラサルヲ以テ、芝草採取地ノ例ニ倣ヒ、左ノ標準ヲ以テ整理スヘシ、
- (イ) 小柴採取地ハ、小柴ノ生産量及需用額ヲ調査シ、尙將來ニ於ケル採取法改良ノ能否他方面ヨリ、スル供給變遷等ヲ考察シテ、必要ナル地域ニ止ムルコト、
- (ロ) 前項ニ依リ劃定シタル小柴採取地ハ、舊慣ヲ參酌シ、適當



(三) ナル方法ヲ定メ利用セシムルコト  
 (四) 公有林野中入會權等ノ爲メ共同使用ニ供セラル、モノハ  
 舊慣及事情ヲ調査シ之カ解除又ハ制限ヲ爲シ若ハ使用區  
 域ヲ限定シテ上割當ツル等ノ方法ヲ取リ林野整理ノ目的ヲ  
 完成スルニ努ムヘシ  
 (五) 公有林野ニ於テ芝草採取ノ慣行アル地方ニアリテハ今尙  
 ホ年々火入ヲ爲スノ弊風存スルモノアリ此弊習取リ行ハ  
 ル、トキハ遂ニ地表ヲ敗殘シ恐ルヘキ國土ノ危害ヲ誘起  
 シ、或ハ火災ノ原因トナリ成林ノ障害ヲナス等國土ノ安寧  
 ヲ害シ又林業ノ發達ヲ阻害スルコト尠カラサルニヨリ開  
 墾及造林ノ地拵等特種ノ事情アル土地ノ外ハ公有林野ニ  
 於テ火入ヲ爲サシメサル方針ヲ取ルヘシ  
 (六) 市町村ニ統一シタル林野管理區分ノ結果農用地ト査定シ  
 タル土地ハ開墾牧場探草地等トシテ適當ノ利用方法ヲ立  
 テ、整理スルモノトス然レトモ此等ノ農用地ハ特ニ管理  
 ノ不便ナルモノ、外ハ可成之ヲ市町村ノ所有トシテ經營  
 スルカ又ハ市町村住民ニ賃借權若ハ地上權等ヲ設定セシ  
 メ適當ニ利用セシメ市町村ヲシテ土地ヲ失ハシメサルノ  
 方針ヲ取ルヘシ  
 (七) 部落有林野ノ整理統一ニ併セテ其他ノ財産モ亦之ヲ統一  
 シ遂行ニ努ムシムルコト

第二百二十五條 前條ノ財産又ハ營造

物ニ關シ必要アリト認ムルトキハ  
 郡長ハ町村會ノ意見ヲ徵シシテ町  
 村條例ヲ設定シ區會又ハ區總會ヲ  
 設ケテ町村會ノ議決スヘキ事項ヲ  
 議決セシムルコトヲ得

●大正元年九月十二日 地發第四〇號 內務部長通牒 各郡長  
 宛(大正元年八月三十一日地發九二六九號ノ內務省通牒)

町村制第百二十五條ニ依リ區會條例ヲ設定セントスルトキハ  
 左ノ準則ニ依リ設定相成度候  
 第一條 何町村區會條例準則  
 第二條 大字何々ニ區會ヲ設ケ  
 第三條 區會議員ノ任期ハ四年トス  
 第四條 區會議員ハ前任者ノ殘任期間在任ス  
 第五條 區會稅納ムル所ヲ有スル町(村)公民ニシテ其區ニ於テ直  
 接町稅納ムル者ハ町村制第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限リニ  
 ノ者又ハ町村制第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限リニ  
 在ラス  
 第六條 帝國臣民ニシテ區ニ於テ直接町稅ヲ納ムル者其ノ額區  
 內ニ住所ヲ有スル町(村)公民ノ其ノ區ニ於テ最モ多ク納  
 稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ前項ノ要件ニ當  
 處セラレタル選舉權ヲ有ス但モ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ  
 三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス  
 第七條 法ニ關シテモ亦前項ノ例ニ依ル  
 第八條 前二項ノ直接町(村)稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬  
 前二項ノ直接町(村)稅ノ納額ハ選舉人名簿調製期日ノ屬



第五條 スル會計年度ノ前年度ノ賦課額ニ依ル 區内ニ住所ヲ有シ其ノ區ニ於テ直接町(村)稅ヲ納ムル者ニシテ町村會議員ノ被選舉權ヲ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス

第六條 區ニ對シ請負ヲ爲ス者及其支配人ハ被選舉權ヲ有セス 町村制第十五條中町村會議員ノ在職失職ニ關スル規定ハ區會議員ニ之ヲ準用ス

舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ第四條ノ適用ニ付テハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス但復權ヲ得タル者ハ此限リニ在ラス

備考 選舉人ノ等級ヲ設ケサルトキハ第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下順次繰下クルコト  
第五條選舉ニハ等級ヲ設ケス

**第二百二十六條** 區會議員ハ町村ノ名譽職トス其ノ定數、任期、選舉權及被選舉權ニ關スル事項ハ前條ノ

町村條例中ニ之ヲ規定スヘシ區總會ノ組織ニ關スル事項ニ付亦同シ  
區會議員ノ選舉ニ付テハ町村會議員ニ關スル規定ヲ準用ス但シ選舉人名簿又ハ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ノ決定及被選舉權ノ有無ノ決定ハ町村會ニ於テ之ヲ爲スヘシ  
區會又ハ區總會ニ關シテハ町村會ニ關スル規定ヲ準用ス

**第二百二十七條** 第二百二十四條ノ場合



ニ於テ町村ノ一部郡長ノ處分ニ不服アルトキハ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

**第二百二十八條** 第二百二十四條ノ町村ノ一部ノ事務ニ關シテハ本法ニ規定スルモノノ外勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 第七章 町村組合

**第二百二十九條** 町村ハ其ノ事務ノ一部ヲ共同處理スル爲其ノ協議ニ依

リ府縣知事ノ許可ヲ得テ町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テ組合内各町村ノ町村會又ハ町村吏員ノ職務ニ屬スル事項ナキニ至リタルトキハ其ノ町村會又ハ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス  
町村特別ノ必要アル場合ニ於テハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可得テ其ノ事務ノ全部ヲ共同處理スル爲町村組合ヲ設クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ組合内各町村ノ町村吏員ハ組合成立ト同時ニ消滅ス



公益上必要アル場合ニ於テハ府縣  
知事ハ關係アル町村會ノ意見ヲ徵  
シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣  
ノ許可ヲ得テ前二項ノ町村組合ヲ  
設クコトヲ得  
町村組合ハ法人トス

**第三百十條** 前條第一項ノ町村組合  
ニシテ其ノ組合町村ノ數ヲ増減シ  
又ハ共同事務ノ變更ヲ爲サムトス  
ルトキハ關係町村ノ協議ニ依リ府  
縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

前條第二項ノ町村組合ニシテ其ノ  
組合町村ノ數ヲ減少セムトスルト  
キハ組合會ノ議決ニ依リ其ノ組合  
ト新ニ加ハラムトスル町村トノ協  
議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘ  
シ  
公益上必要アル場合ニ於テハ府縣  
知事ハ關係アル町村會又ハ組合會  
ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ  
經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合町村  
ノ數ヲ増減シ又ハ一部事務ノ爲設  
クル組合ノ共同事務ノ變更ヲ爲ス



コトヲ得

**第三百三十一條**

町村組合ヲ設クルト

キハ關係町村ノ協議ニ依リ組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

組合規約ヲ變更セムトスルトキハ

一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ關係町村ノ協議ニ依リ全部事務ノ爲ニ設クル組合ニ在リテハ組合會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ組合規約ヲ定メ又ハ變更スルコトヲ得

**第三百三十二條**

組合規約ニハ組合ノ

名稱、組合ヲ組織スル町村、組合ノ共同事務及組合役場ノ位置ヲ定ムヘシ

一部事務ノ爲ニ設クル組合ノ組合規約ニハ前項ノ外組合會ノ組織及



組合會議員ノ選舉、組合吏員ノ組織及選任並組合費用ノ支辨方法ニ付規定ヲ設クヘシ

**第三百三十三條**

町村組合ヲ解カントスルトキハ一部事務ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ關係ノ町村ノ協議ニ依リ全部ノ爲ニ設クル組合ニ於テハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

公益上必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル町村會又ハ組合會

ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ經テ町村組合ヲ解クコトヲ得

**第三百三十四條**

第三百三十條第一項第

二項及前條第一項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事項ハ關係町村ノ協議、關係町村ト組合トノ協議又ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三百三十條第三項及前條第二項ノ場合ニ於テ財產ノ處分ニ關スル事



項ハ關係町村會又ハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經內務大臣ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム

**第三百三十五條** 第二百二十九條第一項及第二項第三百十條第一項及第二項第三百三十一條第一項及第二項第三百三十三條第一項並前條第一項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村組合ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

組合費ノ分賦ニ關シ違法又ハ錯誤アリト認ムル町村ハ其ノ告知アリタル日ヨリ三月以内ニ組合ノ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得前項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ議決ニ付スハシ其ノ議決ニ不服アル町村ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ第四項ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコト得前項ノ決走及裁決ニ付テハ組合ノ管理者ヨリモ訴願又ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得



前二項ノ裁決ニ付テハ府縣知事ヨ  
リモ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

**第三百三十六條** 町村組合(市町村  
制第五百十六條)ニ關シテハ法律勅令中別段  
ノ規定アル場合ヲ除クノ外(市)町  
村ニ關スル規定ヲ準用ス

第八章 町村ノ監督

**第三百三十七條** 町村ハ第一次ニ於テ  
郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣

知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務  
大臣之ヲ監督ス

**第三百三十八條** 本法中別段ノ規定ア  
ル場合ヲ除クノ外町村ノ監督ニ關  
スル郡長ノ處分ニ不服アル町村ハ  
府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服  
アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコ  
トヲ得

**第三百三十九條** 本法中行政裁判所ニ  
出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テ  
ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

●大正七年五月二日 地第二二二四號 内務部長 大津市長  
滋賀郡長宛 (内務省地方局長通牒福地發第三三三號)  
市町村組合ニ參事會ヲ置クルノ件通牒  
市町村組合ニ參事會ヲ置クヤ否ノ件ニ付福島縣知事ヨリ照會  
中ノ處市町村組合モ又市制ニ關スル規定ヲ準用スルノ結果組  
合參事會ヲ置クヘキモノト省議決定相成候旨其筋ヨリ通牒有  
之候條御了知相成度候



**第四百十條**

異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分決定又ハ裁決アリタル日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此限ニ在ラス  
行政訴訟ノ提起ハ處分決定裁定又ハ裁決アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ  
異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴願法ノ規定ニ依ル  
異議ノ申立ハ期間經過後ニ於テモ宥恕スヘキ理由アリト認ムルトキ

ハ仍之ヲ受理スルコトヲ得

異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

**第四百十一條**

監督官廳ハ町村ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ



報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及  
實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納  
ヲ檢閲スルコトヲ得  
監督官廳ハ町村ノ監督上必要ナル  
命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ  
得  
上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ町  
村ノ監督ニ關シテ爲シタル命令又  
ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ  
得

**第四百十二條** 內務大臣ハ町村會ノ

解散ヲ命スルコトヲ得  
町村會解散ノ場合ニ於テハ三月以  
內ニ議員ヲ選舉スヘシ

**第四百十三條** 町村ニ於テ法令ニ依

リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依  
リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルト  
キハ郡長ハ理由ヲ示シテ其ノ費用  
ヲ豫算ニ加フルコトヲ得  
町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スヘ  
キ事件ヲ執行セサルトキハ郡長又  
ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏吏員之



ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ町村ノ負擔トス  
前二項ノ處分ニ不服アル町村又ハ町村長其ノ他ノ吏員ハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

**第四百四十四條** 町村長、助役、收入役又ハ副收入役ニ故障アルトキハ監督官廳ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シ

●四十四年十二月十二日 地發第四二七號 內務部長通牒 各郡長宛  
町村制第四百四十四條ニ依リ職務管掌者ヲ選任又ハ派遣セラレハ場合ハ其人選ニ十分ノ注意ヲ拂ヒ最モ適任者ヲシテ之レニ應ラシムヘキハ勿論其旅費及給料額等ニ就テハ可成左記ニ依リ御取扱相成様致度  
一、官吏ヲ派遣スルトキハ其旅費ハ現ニ受ケツ、アル本官相當ノ額ヲ支給スルコト  
二、臨時代理者ノ給料額及旅費額等ニ付テハ貴郡内該當有給

タル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ町村費ヲ以テ辨償セシムヘシ  
臨時代理者ハ有給ノ町村吏員トシ其給料額旅費額等ハ監督官廳之ヲ定ム

吏員ノ額ヲ參酌シ且其ノ町村ノ經濟ニ鑑ミ適宜之レヲ定ムルコト  
●四十五年七月十日 地第二七九一號 內務部長 各郡市長宛  
(四十五年七月五日內務省地第六一七九號通牒)  
市制第六十四條又ハ町村制第四百四十四條ニヨリ官吏ヲ派遣シタル場合其旅費ハ派遣ヲ受ケタル市町村ヨリ本人ニ直接辨償スヘキコトニ決定相成候條此段及通牒候也

**第四百四十五條** 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ  
一、町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スル事  
二、學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又ハ之ニ大ナル變

●條例制定ニ關シ注意スヘキ事項(三十九年七月二十一日內務省秘甲第六八號)及(大正七年九月十六日岩地第八三號)  
a 一、督促令狀ハ納期後直ニ發付シ其令狀ニ指定スル期間ハ督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ七日以内トスルコト  
一、督促令狀ヲ發付ハ一回ニ止メ其手數料金額ハ令狀壹通ニ付キ金貳拾錢以内ヲ徵收スルヲ得ルコト但シ特別ノ事情アルモ金貳拾錢ヲ超ユルヲ得サルコト  
一、督促令狀ハ前項ノ外脚夫ヲ以テスル場合ハ其ノ里程ニ應ジ壹里毎ニ金貳拾錢以内郵便ヲ以テスル場合ハ其實費ヲ以テ増手數料トシテ徵收スルヲ得ルコト  
二二二



更ヲ加フル事

b  
 一、督促手数料ハ滞納金ト同時ニ徴收スルコト  
 町制第九十三條ニ依ル手續中左ノ事項ニ關シテハ特別  
 事情アル場合ヲ除ク外證明、謄本、抄本ノ下付、閱覽、  
 照合ハ土地ハ一筆建物ハ一棟其他ハ一件ニ付金貳拾錢以內  
 徵稅傳令書、賦課令狀、納入告知書等ノ再交付ハ一件ニ付  
 金貳錢以內ヲ徵收スルヲ得ルコト  
 土地、營業稅所得稅其他租稅公課ニ關スル證明  
 土地、營業稅所得稅其他租稅公課ニ關スル證明  
 營業、職業ニ關スル證明  
 法人ニ關スル證明  
 本籍、住所、居所ニ關スル證明  
 寄留ニ關スル證明  
 族稱、身分、氏名、年齡ニ關スル證明  
 身元ニ關スル證明  
 品行、經歷ニ關スル證明  
 在學、修學ニ關スル證明  
 兵役ニ關スル證明  
 身代限、家資分散、破産ニ關スル證明  
 刑罰、懲戒處分ニ關スル證明  
 褒賞ニ關スル證明  
 生存、不在、失踪ニ關スル證明

出產、死亡、死産、結婚、相續ニ關スル證明  
 家族、親族、隣佑ニ關スル證明  
 親權者、後見人ニ關スル證明  
 面識ニ關スル證明  
 諸資格ニ關スル證明  
 雇人、破産管財人ニ關スル證明  
 財產管理人、納稅代人ニ關スル證明  
 差配人、納稅代人ニ關スル證明  
 種痘ニ關スル證明  
 旅行ニ關スル證明  
 印鑑ニ關スル證明  
 里程、航路ニ關スル證明  
 航海、航路ニ關スル證明  
 社寺、宗教ニ關スル證明  
 埋火葬ニ關スル證明  
 土地其他被害ニ關スル證明  
 公權、能力ニ關スル證明  
 漂流物、沈没品ニ關スル證明  
 文書受理ニ關スル證明  
 公簿、公文書、賦課令狀、納入告知書等ノ再交付  
 徵稅傳令書、圖面ノ謄本抄本  
 公簿、公文書、圖面ノ謄本抄本



墓地、火葬場、屠場使用料ハ左ノ額ヲ超過セサルコト

●大正五年十月十八日 地發第三五一號 內務部長 各郡市町

●三八年三月二十日 內第二七七號 內務部長 郡市長宛

●(三八年三月九日)地甲第三號理財局長地方局長通牒

●(四一年七月六日)地第二一四六號 內務部長ヨリ郡市長宛

第四百四十六條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一、町村債ヲ起シ竝起債ノ方法、利息ノ利率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ第一百十條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス
- 二、特別稅ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 三、間接國稅ノ附加稅ヲ賦課スル事
- 四、使用料手数料及加入金ヲ新設シ又ハ變更スル事

●(四一年八月一日)地第二五三四號 內務部長ヨリ郡市長宛

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒

●(四一年八月六日)地發第一〇五號地方局長通牒



度旨其筋ヨリ通牒有之候條御部内町村へモ此旨御通達相成度  
右移轉候也

●四二年七月二日 地發第一四五號 内務部長通牒 各郡市長宛  
短期起債借入年月ニ關スル件

市町村制ニ因ル三年以内ノ起債ニ就テハ事實上其解釋ヲ誤リ  
取扱區々ニ出テタルモノ有之候趣ニ付テハ左記事項承知致候  
様御示シ相成度候

償還期限ノ計算方ハ借入ノ日ヨリ起算シ曆ニ從フモノトス  
或年度ニ於テ起債ノ義ヲ議決シタルトキハ其年四月一日ヨリ  
翌年三月三十一日迄ニ借入ヲ了スヘキモノニシテ出納閉鎖期  
ニ涉ルヲ得サルモノトス

●二二年二月廿三日 藏第一三七八號 第一部長 各郡長宛  
從來設置セル特別稅ハ許可ヲ受クルニ不及件  
(舊)町村制第百二十六條ノ二ハ新設増額及變更ヲ要スル場合  
ニ付キ從前區町村費ニシテ課額モ増加セズ賦課額モ變更セズ  
シテ其儘存置スル特別稅ハ内務大臣ノ許可ヲ受クル  
限リニ無之旨今般其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候ニ付爲御心得  
此段及御通牒候也

●二七年八月二二日 内第一三三四號 各郡長へ通牒  
市町村特別稅條例又ハ議決ノ許可ヲ受ケタル同稅目ニ於テ別  
途ニ課稅ヲ要スルモノハ左ノ區分ニ依リ稟請セシメラレ度尤  
モ條例及議決書ニハ例へハ山林原野ノ稅率ハ田畑宅地稅率ノ

十分ノ一ヲ超過スルヲ得スト云フ如キ若クハ毎年ノ徵收額ハ  
許可濟ノ稅率以內ニ於テ各地目均一ニ賦課スヘキ趣旨ヲ規定  
セシムル方可然ト存候爲念此段及通牒候也

一、許可濟ノ特別稅增額ノ例  
各地目又ハ幾地目ニ對シ反別割ヲ增額スルノ類  
一、許可濟ノ特別稅變更ノ例  
特別稅變更ノ區域外ニ於テ更ニ反別割ヲ賦課ス  
ルノ類

一、許可濟ノ田畑、宅地反別割ノ外更ニ山林原野ノ反別割ヲ  
賦課スルノ類

一、許可濟ノ田畑、宅地山林原野反別割ノ内幾地目ノミヲ減  
額シ又ハ各地目歩合ヲ異ニシ減額スルノ類

一、許可濟ノ田畑反別割ヲ變シテ田地價割トナスノ類  
●四一年九月十九日 地發第二七七號 内務部長 各郡市長宛  
(四一年九月十二日 往第一〇九八一號 主務局長 地方局長)

●四一年九月十二日 往第一〇九八一號 主務局長 地方局長

今般其筋ニ於テ市町村ヨリ稟請ニ係ル歩一稅許可標準ヲ改正  
セラレ右ニ該當セルモノニ非サレバ許可セラレサルコトニ内  
定セラレ候趣ニ就テハ自今貴郡内町村ニ於テ歩一稅ヲ新設又  
ハ増額セムトスルノ稟請書ヲ經由セラレトキハ該標準ト照  
テ途テ其事由ヲ詳細申相成度依命右通牒候也  
查追テ從來既ニ許可セラレタルモノト雖現ニ賦課シツ、アル



モノニ付テハ時機ヲ見テ漸次右標準ニ準據候様致度申添候也

- 一、地租、所得稅、營業稅附加稅ハ既ニ四十二年法律第三十七號第五條第一項ノ制限ニテ課稅シタルコト
  - 二、同條第二項ニ該當スル費用アルトキハ仍之ニ依リ課稅シタルコト但シ該當スル地租附加稅ハ七十五錢ノ所得稅及營業稅附加稅ハ六十五錢ヲ超ユヘキ場合ニ於テ上記ノ限度ニ止メタルトキハ妨ナシ
  - 三、鑛業既附加稅ハ既ニ極度マテ課シタルコト
  - 四、戶別割(家屋割ヲ含ム)ハ既ニ一月平均三圓五十錢ヲ超ヘタルコト
  - 五、存貯稅營業稅、雜種稅附加稅ハ既ニ本稅一圓ニ付五十錢ヲ超ヘタルコト
  - 六、課率千分ノ十以内ナルコト但特別ノ場合ニ於テハ千分ノ二十マテ許可スルコトアルヘシ
  - 七、存貯期間五ヶ年以内ナルコト
  - 八、家督相續及遺產相續ニ因ル取得ニ對シテハ課稅セサルコト
- 右條件ヲ具備スルニ非ラサレハ許可セサルモノトス尤古來ノ沿革上不得己理由アリ其財政上重要ナル稅源ヲ爲スノ實情アルモノト認ムルトキハ特ニ許可スルコトアルモノトス

四十三三年十二月五日 地第三三一八號 內務部長 各郡市長  
 (四三年十一月二十八日 內務省地第六〇九三號 地方局長  
 主務局長 國債局長)

地益調、調製方ノ件

町村及水利組合ノ稟請ニシテ左記各號ノ一ニ該當スルモノハ自今別紙様式ニ依リ調製シタル地益調ヲ添付セシメ其調査ノ精否ハ篤ト御審査ノ上御進達相成度其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候條依命右通牒候也

追テ本文ニ關スル從來ノ指令通牒ハ自然消滅シタル義ト御承知相成度

- 一、免租又ハ除租中ノ土地ニ對シ段別割ヲ賦課スルコト
- 二、地租附加稅ノ賦課額又ハ段別割若ハ段別割ト地租附加稅トヲ併課シ其地租壹圓當テノ額(壹圓)ヲ超ユルトキ(大正九年五月十五日地第二九〇五號通牒改正)(內務、大藏兩局長通牒發地第九六號)
- 三、地益ヲ增加スヘキ事業ノ爲メ起債セムトスルトキ(事業施行前ノ地益調ト事業成功後ノ見込地益調トヲ添フルコト)

地益調 一反步當



地目	收穫物		田	畑	宅地	何々
	種類	數量				
收穫物	牧	石	0.000			
又	又	又	0.000			
地租			0.000			
府縣			0.000			
市町			0.000			
村稅			0.000			
水利			0.000			
耕作			0.000			
純益			0.000			

一、賦課ノ等差ヲ設クルモノニ在テハ其等級別ニ記載スルコト  
 一、收穫物ノ種類ハ主要ナルモノヲ掲クルコト但シ田ニシテ  
 二、毛作ヲ爲ス爲メ收穫物ノ種類ヲ異ニスルトキハ各別ニ之  
 一、宅地ノ如キ收穫物ナキモノハ貸賃價格ヲ記載スルコト

一、牧場ノ收穫金ノ如キハ算出ノ基礎ヲ備考ニ記載スルコト  
 一、前三年ノ平均額ヲ掲クルコト  
 一、耕作費等ハ勞銀、種子代、牛馬使用ノ費用、肥料、農具  
 一、代額ハ總テ當該年度ノ賦課額ヲ掲クルコト  
 一、耕地整理組合費用ノ負擔アルトキハ水利組合費其他ノ欄  
 一、之ヲ合記シ其ノ由ヲ備考ニ記載スルコト  
 一、收穫物又ハ收穫金、經費ニ關スル計算ハ關係地ノ平均ニ  
 依ルコト

●大正元年十一月十六日 地方局長通牒  
 郡市區町村其他ノ公共團體ニ於テ起債ノ方法ニ依リ事業ヲ經  
 營スル場合設計ノ調査方ニ關シ三十七年九月廿八日地甲第一  
 六九號ヲ以テ次官ヨリ通牒相成起債額壹萬圓以上ノモノニ對  
 シテハ工事設計書ヲ添付セシムルコトニ相成候處土木工事  
 ニ關シテハ自今工事設計書ノ添付ヲ要セス候條事業計畫ノ大  
 要及工事費其他收支計畫ノ基ク所ノ說明書並ニ工事施設ノ位  
 置ヲ明示シタル平面圖添付セシムラレ度右ハ此等工事ノ設計  
 ハ專ラ貴官ノ審査ニ待ツノ趣旨ニ有之候間設計ノ適否ハ技術  
 員ヲシテ豫メ實地ニ就キ調査セシムル等慎重ニ審査ヲ遂ケ工  
 事中央ニ於テ設計ノ變更調査ノ補足ヲ要スル等不都合ヲ生セ  
 可相成答ノ處往々之レカ記載ヲ缺キタルモノ有之爲メ照會



チ要シ遺憾少ナカラサル次第ニ付今後ハ精細ニ御副申相成度  
 依命此段及通牒候也  
 一七號ヲ以テ及通牒候關シテハ明治四十三年十月地第五九  
 ノ添付ヲ要セシ候ハ共建築ノ認可ハ起債稟請ノ進達前ニ必  
 ス之レヲ了シ其旨明記セシメ御進達相成度又ハ過大ナル  
 ノ狀況ニ深ク注意ヲ拂ハスモ要ナラサル建築又ハ過大ナル  
 設計ヲ其儘認可セラレタル向モ有之如此ハ地方財政ノ整理  
 上不可然義ニ付今後向一層御注意相成候様致度建築費豫算  
 附記ノ記載方ニ關シテハ特ニ及通牒置候處往々記載粗略ニ  
 失シ不明瞭ナル爲メ照會ヲ要スル向モ不少事務簡捷上遺憾  
 ナル義ニ付今後ハ校舍ノ坪數等設計ノ大要内譯及計算ノ基  
 礎明確ニ記載候様御留意相成度此段特ニ申添候  
 大正三年七月二十五日 地第六六六號 內務部長 各郡市  
 長宛(內務、大藏兩省局長通牒地第五五號)

本年法律第二十三號取引所營業稅附加稅ノ件移牒  
 日ヨリ施行セラレハ、ニ付テハ市町村ニ於テ取引所營業稅附加稅ノ科目ヲ設ケ  
 テ整理シ可然候  
 追而市町村ニ於テ取引所營業稅附加稅ヲ賦課セントスル場  
 合ニハ市制第六十六條第三號町制第四百四十六條第三項  
 ノ規定ニ依リ內務、大藏大臣ノ許可ヲ要スル義ニ有之候爲

●申添候  
 大正七年一月九日 地發第五號 內務部長 各郡市長宛

從來ヨリ財產及營造物ヲ有スル町村ノ一部ニ於テ單獨負債ヲ  
 起シ紛擾ヲ惹起シタル例モ有之候處由來町村ノ起債ナルモノ  
 ハ町制第一百二十二條ニ依リ特ニ町村限リ認メラレタルモノ  
 シテテ單ニ財產及營造物ヲ管理スルニ止マル町村一部ノ區ニ在  
 リテハ假令其管理上必要ニシテ多額ナル費用ヲ要スル場合ト  
 雖起債スルヲ得サルハ必要ニシテ多額ナル費用ヲ要スル場合ト  
 得サル場合ニ於テハ町村其負債ノ衝ニ當リ之レヲ納付セシメ  
 之レニ充テシムルノ例外方法ヲ採ルノ外無之義ト存候條右御  
 了知相成度候  
 大正七年三月三十日 地第一四二一號 內務部長 各郡市長  
 宛(內務省通牒地二二三號)

耕田整理法第三十八條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ハ共同施  
 行者力事務ヲ町村ニ引繼カントスルニ當リ未償還ノ負債アル  
 場合其負債ハ耕地整理ノ事業ト共ニ町村ニ引繼キ得ルヤ否ニ關シ耕地整  
 理ノ負債ハ耕地整理ノ事業ト共ニ町村ニ引繼キ得ルヤ否ニ關シ耕地整  
 理ノ無之村制ノ規定ニ依リ許可稟請ノ手續ヲ要スル旨其筋  
 ヲ通牒有之候條右ノ趣旨ニヨリ御取扱相成度候



●大正八年五月十五日 地第一三八三號 內務部長 各郡市長  
 宛 (大藏省理財局長通牒第四九六號)  
 地方公共團體起債稟請添付書類ニ付テハ從來數次ノ訓令有之  
 候處往々償還財源ノ明瞭ナラサルモノ有之調査上支障ナカ  
 ラス候ニ付爾今起債ニ依リテ經營スル事業ヨリ生スル收入ヲ  
 償還財源トスルモノハ勿論租稅ノ新設又ハ増稅ニヨリ償還ス  
 ル場合ニ於テハ償還終了ノ年迄毎年償還財源及收入ノ年次見  
 込書添付シテハ償還期間中ニ於ケル毎年ノ歲入出見込書ヲ豫算  
 モノニ付テハ償還期間中ニ於ケル毎年ノ歲入出見込書ヲ豫算  
 科目ニ準據シテ調製添付シ償還財源ヲ明瞭ナラシムル様致度  
 旨其筋ヨリ通牒有之候條將來右ニ御處理相成度候  
 大正八年十二月一日 地第三三五三號 內務部長 各郡市長  
 宛 (內務省地方局長通牒地發乙第五八八號)

前掲許可標準左記ノ通り定メラレ候趣其筋ヨリ通牒有之候條  
 右御了知相成度候  
 一、市町村ノ遊興稅ハ左ノ範圍内ニ於テ之レヲ許可スルコト  
 イ、府縣ニ於テ遊興稅ヲ課セサル場合一人一回消費金額ノ  
 ロ、府縣ニ於テ遊興稅ヲ課スル場合ハ市町村ニ於テハ遊興  
 府稅課稅ニ對スル附加稅トシテ賦課スルコト但  
 止メシムル事  
 府稅課稅ニ對スル附加稅トシテ賦課スルコト但  
 止メシムル事

●大正九年六月四日 地第 號 內務部長 各郡市長宛  
 (內務、大藏兩局長通牒地發第一一七號)

五月廿七日 內務省告示第四二號ヲ以テ直接稅中ヨリ雜種稅遊  
 興稅及觀覽稅ヲ除クノ件告示相成候ニ付將來市區町村ハ間接  
 稅タル地方稅(府縣稅、遊興稅及觀覽稅)ニ對シ其附加稅ヲ賦  
 課シ又ハ市區町村ノ特別稅トシテ遊興稅ヲ賦課シ得ル筋合ニ  
 有之候尙其遊興稅附加稅並ニ特別稅遊興稅ノ課率ニ關シテハ  
 大正八年十二月一日 地第三三五三號通牒ニ依ル義ト御承知相  
 成度候

●四十五年十月廿日 地第二九四六號 內務部長 各郡市長宛  
 (內務省地方局長通牒地發五七九八號、內)

市區町村カ起債ヲ爲ス場合ニ於テ一方ニ於テ巨額ノ基本財產  
 ナ有スルニモ不拘其財產蓄積ノ利子ヨリモ高キ利子ヲ以テ起  
 債ヲ爲スハ財政上不得策ノ義ニ付如斯場合ニ於テハ相當確實  
 ナル積戻ノ方法ヲ講シ基本財產ヲ流用スルハ其趣旨ニ悖ラサ  
 ル義ニ付將來右ニ依リ御取扱相成度  
 二十九日 地第二〇二號 地方局長通牒  
 從來地方債ヲ起スニ當リ其記載額中ニ募集費及利子ヲ組入レ  
 稟請セルモノニ對シ許可セラルモノ有之候處右ハ全ク特  
 別ノモノニシテ常例トシテ許可セラルヘキモノニ無之候條爾  
 後公債ヲ以テ事業ヲ經營セントスル場合ニ於テハ募集費利子  
 等ハ其他ノ歲入ヲ以テ支辨スヘキ様御留意相成度候



四十四年五月十八日 地第一五六二號 內務部長通牒  
四十四年二月廿五日 地第六三五號 改正 各郡市長宛

二三六

- 一、地方貸付資金ハ新事業經營費又ハ高利公債ノ借替(日本勸業、日本興業、府縣銀行、北海、道拓殖ノ各銀行貸付ノ分ヲ除ク)日本興業銀行ノ爲メ供給セラル、モノニシテ一口參萬圓以上ハ日本勸業銀行ヨリ直接貸付シ一口參萬圓以下ノモノハ府縣農工銀行ニ於テ代理貸付スルモノトス但シ一口參萬圓以上ノモノニシテ特別ノ事由アルトキハ府縣農工銀行ハ代理貸付ノ認可ヲ內務、大藏兩省ニ申請スルコトヲ得ルモ、不要許可債ニ對シテハ許可債(借替共)及北海道土功組合債ニ供給シ其殘餘ノ資金ヲ以テ供給セラル、モノトス
- 二、本件資金ノ供給ヲ受ケントスル公共團體ハ起債稟請書類(許可債ノ借替ニシテハ地方貸付資金供給稟請書類)正副二通要許可債ニ在リテハ地方貸付資金供給稟請書類)正副二通(內務、大藏兩大臣宛)ヲ毎年四月三十日迄ニ市ニ在リテハ縣廳ニ其他ノ團體ニ在リテハ郡役所ニ提出スヘシ但シ副本ハ正本ト相違スルカ如キコトナキ様特ニ注意ヲ要ス但工事業設計書等ニ關シテハ自今副本ヲ不要(七年九月廿一日地第三七一四號)
- 三、許可債ハ勿論高利公債ノ借替ニシテ許可ヲ受ケルコトヲ

- 要セサルモ、其他不要許可債ニ在リテモ前項ノ稟請書ニ理由書公債並ニ利子償還ノ財源調査(將來收入ヲ生スヘキ事業ノ爲メ公債ヲ起シ其收入ヲ以テ償還ニ充テントスヘキ事)ハ二還期限ノ終リマテ毎年収入ノ年次見込書ヲ添付スルコトキ及當該年度歲入出豫算表(一覽表ニテアラズ)ノ外別紙様式ニ依リ起債決議書、公債元利償還年次表、當該年度諸稅負擔一覽表及基本財産調査ヲ添付スルコトヲ要ス
- 四、高利公債借替ニ係ル分ハ前項添付書類ノ外從前ノ起債決議書、償還年次表(一通)ヲ添付スヘシ
  - 五、資金ノ借入先ハ全額ノ如何ニ拘ハラズ總テ日本勸業銀行ト爲スヘシ
  - 六、本件公債ノ償還ハ元利均等償還ノ方法ニ依ルヘキハ勿論毎年度二回ニ償還年額ヲ二分シテ仕拂フヘキ答ニ付償還年次表ノ調製上注意ヲ要ス但シ年次表ハ公共團體ノ申出ニ依リ府縣農工銀行ニテ便宜調製スヘキ趣ナリ
  - 七、資金供給ノ期月ハ豫定シ難ク從テ償還期月ヲ確定シ難キ場合モアルヘキヲ以テ起債決議書ニハ借入ノ時期ハ何年度トシ其期月及毎年度償還ノ期月ハ銀行ト協定スル趣旨ヲ以テ記載スルコトヲ要ス
  - 八、舊借替ノ分ハ財政ノ都合ニ依リ隨時償還ヲ爲シ得ルコトノ定メナキモノニ付テハ債權者ノ認諾ヲ經其旨稟請書ニ

二三七



- 九、記載スルコトヲ要ス  
 九、稟請書ハ必ス期日ヲ愆ラス提出スヘク尙ホ左ノ事項ハ特ニ注意スヘシ
- 一、添付書類ヲ遺漏シ又ハ違算ナカラシムルコト
- 二、財源ノ確實ナルコト
- 三、借替ニ際シ漫リニ舊債ノ償還年限ヲ延長セサルコト
- 四、借入年度内ニ償還スヘキモノヲ借替額ニ加算スヘカラサルコト
- 五、財政ノ許ス限リ償還年限ヲ短縮スルコト
- 六、償還年次表ノ償還年額ハ元利ニ區別シ錢位ニ止ムルコト
- 十、本件資金ハ毎年打切り計算セラル、モノニシテ某年度ノ繼續事業費ニ對シ供給ヲ受ケタルモノト雖モ必スシモ後年度分ニ對シ供給ヲ要求シ得ヘキ限ニアラサレハ誤解ヲ生セサル様注意ヲ要ス
- 十一、四十四年度以降供給ノ分ニ對スル利率ハ左ノ通トス  
 日本勸業銀行直接貸付ノ分ハ年五分三厘、農工銀行代理貸付ノ分ハ參萬圓以下年五分八厘參萬圓以上ハ年五分三厘トス
- 前項貸付ノ利率ハ据置年賦期間トモ同率トス
- 十二、公共團體ヨリ銀行ニ償還スル年限ハ据置年賦期間ヲ通シ二十ヶ年以内トス

某郡市町村會議決書

- 一、起債金額 何萬圓  
 小學校建築費ニ充ツル爲(何々費ニ充ツル爲、何年何月何日許可ヲ得何々銀行ヨリ借入レタル公債ノ未償還額何程借替ノ爲)
- 一、借入金利率 年五分何厘
- 一、借入先 日本勸業銀行
- 一、借入時期 明治四十何年度但借入期月ハ銀行ト協定スルモノトス
- 一、据置期間 借入ノ月ヨリ何年何月迄但借入期月ノ都合ニ依リ變更スルコトアルヘシ
- 一、償還期限 自何年度何年賦但毎年度ノ償還期月ハ銀行至何年度何年賦但毎年度ノ償還期月ハ銀行ト協定スルモノトス
- 市町村財政ノ都合ニ依リ繰上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得
- 一、償還財源 市町村稅(何々)

明治何年何月何日議決



年賦償還貸付金均等分償額表

元金		圓		簡年賦年利		ノ割	
年次	元金	殘高	減債元金	利息	均等分償高	年	年
年							
年							
年							

諸稅負擔一覽表

稅目	金額	諸稅者總數ニ對スル平均一八當	總人口ニ對スル平均一八當	總戶數ニ對スル平均一戶當
府縣稅				
直接國稅	円			

市町村稅

總人口總戶數及納稅者總數 (納稅者ノ總數ハ一人ニシテ直接ノモ或ハ其内一稅又ハ二稅ノミチ納ム) 國稅府縣稅市町村稅ヲ納ムルモルモ凡テ一人ニ算シタル總人員ヲ云フ) ナ備考トシテ掲載スヘシ

水利組合ニ於テ要スル負債ニ付テハ水利組合區域内ヨリ納ムヘキ諸稅目ヲ前表ニ準シ調製シテ尙ホ左表ヲ添付スヘシ

費目	金額	附記
水利組合費	円	普通水利組合ニ於テハ組合内ノ總反別及總地價及地價平均壹圓當並ニ出費一人ノ平均負擔圓水害豫防組合ニ於テハ組合内ノ家屋ノ總數土地ノ總反別並ニ出費一人ノ平均負擔額

基本財産調書 (何年何月何日現在)



種類	數量	價格	備考
土地		円	
何々			
何々			
合計			

一、郡役所ニ於テ公共団体ヨリ地方貸付資金供給稟請手續ニヨリ提出スル起債又ハ資金供給ノ稟請書ヲ受領シタルトキハ其団体ノ財務ノ狀況及新事業ニ關スルモノハ明治三十七年十月六日付内第一六〇一五號通牒ニ依リ事業ノ適否設計ノ適否等ヲ審査シ尙當該公共団体ノ徵稅ノ例市區町村ニ在リテハ市區町村稅ノ成績基本財産管理ノ當否舊債償還ノ成續會計事務ノ成否其他財務ノ狀況ヲ取調毎年五月十日迄ニ詳細意見ヲ副申シ縣廳ニ進達スヘシ

二、前項ノ稟請書ハ全部取纏メヲ爲スニ及ハス調査濟ノ上ハ速ニ進達スヘシ

三、左記ノモノニ對シテハ供給ノ證議セラレサルヲ以テ稟請書進達ニ際シテハ特ニ注意ヲ要ス

(一) 財政不整理ニシテ舊債ノ償還ヲ怠リタルコトアルモ公債額僅少ニシテ替借ヲ要セス直チニ整理シ得ヘキモノ

(二) 市町村稅等怠納ノ弊アリ又基本財産ノ管理整ハスシテ未タ整理ヲ了セサルモノ

(三) 新事業ノ成否確的ナラス又ハ施行ノ不急ナルニ資金ノ低利ナルカ爲メ徒ラ借入レテ爲サントスル嫌アルモノ

四、稟請書ハ必ス期日ヲ愆ラス進達スヘク又起債ニ關スル書類ハ十分ノ調査ヲ盡シ照復ノ爲メニ徒ラ二日子ヲ要セサル様特ニ注意スヘシ尙ホ左ノ事項ハ特ニ注意ヲ要ス

(一) 添付書類ヲ遺漏シ又ハ違算ナカラシムルコト

(二) 財源ノ確實ナラサルモノナカラシムルコト

(三) 借替ニ際シ漫リニ舊債ノ償還年限ヲ延長セサルコト

(四) 借入ノ年度内ニ償還スヘキモノヲ借替額ニ加算スヘカラサルコト

(五) 財政ノ許ス限リ償還年限ヲ短縮スルコト



五、公共團體カ借入金ヲ受領シ仕拂ヲ爲スニ至ル迄ノ間ニ在リテハ可成之レヲ郵便貯金ニ預ケ入又ハ勸業銀行ノ貸付ニ係ルモノハ同行ニ委託セシムヘシ但農工銀行代理貸付ニ係ルモノハ同行ニ於テモ取扱フモノトス

第四百四十七條 左ニ掲クル事件ハ郡

長ノ許可ヲ受クヘシ

一、基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二、特別基本財産及積立金穀等ノ管理及處分ニ關スル事

三、第九十條ノ規定ニ依リ舊慣ヲ變更又ハ廢止スル事

四、寄附又ハ補助ヲ爲ス事

五、不動産ノ管理及處分ニ關スル事

六、均一ノ稅率ニ依ラスシテ國稅又府縣稅ノ附加稅ヲ賦課スル事

七、第二百二條第一項第二項及第四項ノ規定ニ依リ數人又ハ町村ノ一部ニ費用ヲ負擔セシムル事

八、第四百四條ノ規定ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ數人若ハ町村ノ一部ニ對シ賦課ヲ爲ス事

九、第二百五條ノ標準ニ依ラスシテ夫役現品ヲ賦課スル事但シ急迫

●大正二年五月十四日 地發第一七四號 內務部長通牒 各郡長宛

基本財産ノ繰入使用ニ關スル件  
町村基本財産ノ繰入使用ハ其積戻方法ノ確實ヲ期スヘキハ勿論積戻期限溢リニ長期ニ失スルカ如キコト無之様御注意相成度尙右繰入額ニハ其積戻ヲ了スル迄相當利子(少クモ當座預金利子)ヲ附スルモノタルテ認メラレタル上御許可相成候様致度

●基本財産等ヲ信用組合ニ預ケ入ニ付テハ第七十二條ノ例規參照



ノ場合ニ賦課スル夫役ニ付テハ  
此ノ限ニ在ラス

十、繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

**第四百四十八條** 監督官廳ノ許可ヲ要

スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可  
申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍  
内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコ  
トヲ得

**第四百四十九條** 監督官廳ノ許可ヲ要  
スル事件ニ付テハ勅令ノ定ムル所

●大正元年十月二十六日 縣訓令第十三號(大正元年八月三十  
一日 地第九二六九號 內務、大藏、文部次官通牒)  
第一條 條例又ハ議決ニシテ知事ニ委任ノ事項ト主務大臣ノ

ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督  
官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ  
限リ許可ヲ受ケシメサルコトヲ得

許可ヲ受ケヘキ事項トシテ併セテ定ムル場合ニハ其條例又ハ  
議決ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケヘキモノトス

第一條 起債ノ市町村起債ノ許可ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一、利率、起債ノ利率、起債ノ期限、起債ノ目的、起債額、

二、起債ノ都府縣ニ依リ、起債ノ期限、起債ノ目的、起債額、

三、起債ノ都府縣ニ依リ、起債ノ期限、起債ノ目的、起債額、

四、起債ノ都府縣ニ依リ、起債ノ期限、起債ノ目的、起債額、

第三條 市町村長ハ勅令(大正八年勅令第十八號ヲ指ス以下

同)第二條第一號及第二號ノ處理ヲ爲シタルトキハ直チニ

其議決書寫及償還年次表ヲ添ヘ其旨左ノ區分ニ依リ報告ス

一、其起債ニシテ主務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ

主務大臣

第二條 勅令第二條第三號ニ依リ條例ヲ廢止シタルトキハ其

第四條 勅令第二條第三號ニ依リ條例ヲ廢止シタルトキハ其

大正元年十月廿九日 地第三九二號 內務部長通牒 各郡市



長宛  
 本年八月市制町制ニ關スル事務取扱ノ件  
 一、務取中勅令(大正元年八月)市制第百三十一條第一  
 二、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三、町儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 四、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 五、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 六、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 七、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 八、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 九、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十一、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十二、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十三、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十四、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十五、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十六、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十七、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十八、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 十九、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十一、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十二、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十三、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十四、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十五、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十六、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十七、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十八、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 二十九、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十一、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十二、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十三、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十四、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十五、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十六、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十七、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十八、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 三十九、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條  
 四十、儀三項町制第九十三條第二項第百三十一條

度ヲ超過スルノ要アルトキハ其事由詳細記載セシメラレ度  
 六、同用水使用料トハ地盤官有ニ屬スル用水路ノ分ヲ含マサ  
 七、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 八、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 九、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十一、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十二、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十三、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十四、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十五、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十六、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十七、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十八、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 十九、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十一、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十二、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十三、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十四、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十五、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十六、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十七、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十八、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 二十九、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十一、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十二、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十三、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十四、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十五、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十六、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十七、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十八、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 三十九、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來  
 四十、同土地ノ使用料トハ市制第百十條町制第九十條ノ舊來



生シメサル様規定スヘキモノニ付例セハ第三條第二項  
 前段ニ在職滿十五年以上十六年未滿ニシテ退職シタル者  
 云々ト規定スル場合ニハ同項後段ノ一何年以上ハ十五  
 年ト規定スルニシテ注意シヘキモノナルニ從來十六年以上ト規定  
 セル向有之注シタルヘキコト  
 五、同第四條第二項ノ退隱料額ハ第三條ノ退隱料額ヨリモ  
 少額ニ規定スルハ適當ナラス  
 六、同第六條ノ規定ハ條例施行前ノ在職年數ヲモ計算スル  
 趣旨ナルヲ以テ別段ノ規定ナキ限リ町村制施行以後其就  
 職ノ時ニ週リ起算又ハ通算スヘキモノニ有之  
 七、同第七條中前後通算シテ在職滿何年ニ至ルノ年數ヲ第  
 二條ノ在職年數ト同一ニ規定スル向アリ適當ナラス  
 八、退隱料條例改正ノ場合ニハ既ニ退隱料ヲ受ケ又ハ之レ  
 ヲ受ケヘキ者ニ關シ經過的規定ノ要否ヲ調査シ必要アル  
 十、有給吏員遺族扶助料條例ハ官吏遺族扶助法、市町村立小  
 學校教員遺族扶助料及遺族扶助法及巡查看守退隱料及遺族扶  
 助法ノ規定ヲ參酌シテ相當規定セシメラレ度  
 十一、家畜市場使用料ハ賣買交換ヲ違約シタル場合ニモ之レ  
 ヲ徵收スルヲ妨ケサルモ其料金ハ違約金ヲ標準トセス一頭  
 十二、付若干ト規定セシメラレ度  
 十二、多岐ニ涉リ若クハ町村ノ區域廣濶ナルカ又ハ特別ノ事業

ヲ經營セル其他町村ノ情況ニ照シ必要已ムヘカラサル事  
 由アル場合ニ限ル義ニ有之濫リニ之ヲ設ケルカ如キハ當ニ  
 別ノ趣旨ニ反スルミナラス經費ノ増加ヲ來スヘキニ付特  
 別ノ事情ノ有無ハ嚴正ニ御審相成度  
 十三、町村ヲ爲スヘキ時ニ其名稱ヲ變更スルモノハ主務省  
 且町ヲ爲サレハ將來ノ發展ヲ精査シ大部分市街地ヲ形成シ  
 十四、町ヲ爲サレハ將來ノ發展ヲ精査シ大部分市街地ヲ形成シ  
 十五、易ニ許シラレハ將來ノ發展ヲ精査シ大部分市街地ヲ形成シ  
 十六、之ヲ設ケル町村ノ區會及區總會ニ關スル條例ヲ含ム義ニ有  
 十六、勅令第二條第三號ノ條例ノ廢止ハ條例ヲ以テスヘキハ  
 勿論區會及區總會條例ノ廢止ニ關スル條例ハ其設定ト同様  
 十七、貴官ニ於テ告示セラレヘキ義ニ付御注意相成度  
 十七、同條第八號ニヨリ耕地整理ノ爲メ町村ノ境界變更ス  
 市ノ境界ニ關係ナクモ耕地整理ノ爲メ町村ノ境界變更ス  
 現在ノ境界ニ關係ナクモ耕地整理ノ爲メ町村ノ境界變更ス  
 十八、御前各號ノ外本件ニ關スル取扱ハ從前ノ通牒又ハ照會通  
 知相成度候



第二百五十條

府縣知事又ハ郡長ハ町  
村長、助役、收入役、副收入役、  
區長、區長代理者、委員其ノ他ノ  
町村吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ  
得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓  
以下ノ過怠金及解職トス但シ町村  
長、助役、收入役及副收入役ニ對  
スル解職ハ懲戒審査會ノ議決ヲ經  
テ府縣知事之ヲ行フ  
懲戒審査會ハ內務大臣ノ命シタル  
府縣高等官三人及府縣名譽職參事  
會員ニ於テ互選シタル者三人ヲ以

●四十四年十月二十三日 內務省秘第一三〇七號 內務次官通  
市制第七十條町村制第五十條ノ懲戒審査會々員中府縣高  
等官ヨリ出ツル會員ハ此際任命可相成ニ付其官氏名至急御内  
申相成度爾後命免ヲ要スルトキハ其都度御内申相成度候

テ其ノ會員トシ府縣知事ヲ以テ會  
長トス知事故障アル時ハ其ノ代表  
者會長ノ職務ヲ行フ府縣名譽職參  
事會員ノ互選スヘキ會員ノ選舉補  
闕及任期竝懲戒審査會ノ招集及會  
議ニ付テハ府縣制中名譽職參事會  
員及府縣參事會ニ關スル規定ヲ準  
用ス但シ補充員ハ之ヲ設クルノ限  
ニ在ラス  
解職ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分  
ニ不服アルトキハ郡長ノ處分ニ付  
テハ府縣知事ニ訴願シ其ノ裁決ニ



不服アルトキ又ハ府縣知事ノ處分ニ付テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

府縣知事ハ町村長、助役、收入役及副收入役ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ其ノ停職期間報酬又ハ給料ヲ支給スルコトヲ得ス

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間市町村ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セラレルコトヲ得ス

**第五百一十一條 町村吏員ノ服務紀律**

賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ命令ニハ事務引繼ヲ拒ミタル者ニ對シ二十五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

●四十四年十二月二十二日 地發第四三九號 内務部長通牒

各郡市長宛

本年九月内務省令第十七號市町村吏員事務引繼ニ關スル規程第三條第二項ノ手續ハ前任者退職ノ日迄ニ於ケル事實ニ付之レテ爲スヘキ義ニ有之候處若シ引繼ヲ遲延スル場合ハ現金並ニ物品ノ保管及帳簿ノ整理上ニ關シ夫是支障ヲ生スヘク存候ニ付可成退職後直チニ相當ノ手續履行候様特ニ豫メ御注意相成度而シテ引繼迄ニ相當ノ日子(退職後十日以内)ヲ要スル場合ハ左記ニヨリ取扱ハシメラレ度

- 一、現金物品ニ付テハ退職ノ際特ニ其現在高チ明瞭ナラシムル様處置スルカ又後任者(副收入役代理者ヲ含ム)以下同シヘテハ日常執務ニ必要ナルモノニ付前項ニ準シ後任者ヘ假リニ引繼クコト
- 二、前項ノ場合ハ町村長又ハ其ノ代理者之ニ立會フコト
- 三、後任者第二項ニ依リ引繼ヲ受ケタル帳簿ニ記帳ヲ爲ストキハ退職者ノ記入シタル最終ノ箇所ニ合規ノ手續ヲ爲スニ足ルヘキ餘地ヲ存セシメ其次ヨリ之ヲ爲スコト
- 四、大正元年十二月十八日 滋賀縣訓令第二十五號 大正元年十一月十六日 地第一七號 地方局長通牒

市町村吏員ノ旅行又ハ除服ニ付取扱方ノ件左ノ通り之ヲ定

▲第一條 市町村長ハ法律命令ノ規定又ハ官廳ノ召喚ニ依ル場



合ノ外職務ノ地ヲ離レントスルトキハ其事由、用務地日限  
 等ヲ詳具シ市長ハ知事、町村長ハ郡長ノ許可ヲ受ケヘシ  
 市町村助役、收入役其他ノ吏員ニシテ出張ヲ命セラレタル  
 場合ノ外職務ノ地ヲ離レントスルトキハ前項ニ依リ市吏員  
 ハ市長、町村吏員ハ町村長ノ認可ヲ受ケヘシ但シ助役ノ旅  
 行ニ付市町村吏員故障アルトキハ前項ノ例ニ依リ届出ツヘ  
 シ其除服ハ町村吏員喪ニ了リタルトキハ前條ニ依リ市町村  
 長之レヲ達スヘシ但市町村長故障アルトキハ助役ノ除服ニ  
 付テハ前條第一項ノ例ニ依ル

●明治三十五年六月滋賀縣訓令第二十七號ハ之レヲ廢止ス  
 大正元年十二月十八日 地第一〇一九號 內務部長通牒 各

●郡長宛  
 本日訓令第二十五號發布相成候處右ハ舊手續ヲ更正シ行政整  
 理事務簡捷ノ趣旨ニ出テタルモノニ有之候條寬嚴其度ヲ失セ  
 サル様御處理相成度而シテ助役ノ旅行除服ニ付町村長故障ア  
 ル場合ト雖町村制第四百四十四條ノ其臨時代理者又ハ事務管掌  
 者アルトキハ其者ニ於テ除服ヲ達シ其旅行ヲ認可シ然助役  
 數人アル場合ニハ町村長ノ代理者タル助役ノ除服及旅行ニ關  
 シテノミ訓令各條但書ノ適用アル趣旨ニ有之候間左様御了知  
 相成度候  
 訓令第五十一號 大正七年十月十六日 郡役所 市役所 町

●市町村吏員事務引繼細則左ノ通之ヲ定ム

- 第一條 市町村吏員事務引繼細則ハ明治四十四年內務省令第十  
 七號ニ依ルノ外本規定ニ依ルヘシ
- 第二條 市町村長ヨリ第一監督官廳ニ之ヲ報告スヘシ  
 前項ノ期日ニ拘ラス監督官廳ハ其ノ期日ヲ指定スルコトヲ  
 得
- 第三條 事務引繼ヲ了スルコトヲ得サルタメ第一次監督官廳  
 ノ許可ヲ受ケル場合ハ更ニ其ノ引繼期間ヲ定メテ稟請スヘ  
 シ
- 第四條 市町村長ハ收入役及分掌事務アル副收入役及收入役  
 代理者ノ事務引繼ニ立會フヘシ
- 第五條 郡長ハ吏員ヲ派遣シテ事務引繼ニ立會ハシムヘシ  
 但シ出納及會計事務ノ引繼ヲナス場合ノ外之ヲ省畧スルコ  
 トヲ得
- 第六條 事務引繼ハ吏員退職ノ日ノ現在ニ依ルヘシ一時引繼  
 ヲ受ケタル者ヨリ後任者ニ引繼ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ後  
 任者就職ノ日ノ現在ニ依ルヘシ
- 第七條 町村ノ一部又ハ町村組合、水利組合等ノ管理事務ア  
 ルトキハ各別ニ其ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 市町村吏員事務引繼ニ關シ意見ヲ異ニスルトキハ各



第九條 其ノ意見ヲ具シ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ  
 第十條 類帳簿、明治四十四年內務省令第十七號ニ依リ調製スヘキ書式ニ依ルヘシ  
 第十一條 處分未済若ハ未著手又ハ將來企畫スヘキ事務ニ付其ノ順序方法及意見ヲ記載スル場合ハ演述書トシテ調製スヘシ  
 第十二條 物件等ノ前條第一項ニ依リ調製スヘキ書類、帳簿、財產又ハ引繼書ニ現在ヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ充用シ其ノ旨  
 第十三條 引繼書ニ記載スヘシ  
 第十四條 市町村吏員死亡其ノ他ノ事故ニ因リ自ラ引繼ヲ命  
 第十五條 市町村事務ヲ調査シ引繼ヲ爲サムヘシ  
 第十六條 市町村長ハ其ノ直ニ第一監督官廳ニ報告スヘシ  
 第十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第二十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第三十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第四十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第五十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第六十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第七十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第八十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十一條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十二條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十三條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十四條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十五條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十六條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十七條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十八條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第九十九條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 第一百條 市町村事務引繼ノ期間內ニ監督官廳ニ爲サハルトキハ市  
 本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十六年訓令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

(第一例)

引繼書  
 大正何年何月何日任期滿了(何々)ニ付別紙書類、帳簿及財產  
 目錄(現金目錄、現金明細書)並演述書ニ依リ事務引繼候也  
 大正 年 月 日  
 元職 氏 名  
 右事務引繼相受候也  
 大正 年 月 日  
 職 氏 名

(第二例)

書類、帳簿、目錄  
 土地臺帳  
 地租名寄帳  
 地租名簿  
 議事規程  
 地圖  
 基本財產田小作證書  
 以上  
 何何何何何何  
 括通棄冊冊冊冊

(第三例)

財產目錄  
 二五九



其一 財產中左記ノモノハ臺帳ニ登載ノ現在ヲ充用ス  
 一、備品臺帳  
 一、村基本財產臺帳  
 一、學校基本財產臺帳  
 一、村有財產臺帳  
 其二 臺帳ノ設ケナキ市町村ニ在リテハ土地、建物、有價證券、現金又ハ備品等ニ區分シ左ノ例ニ倣ヒ之ヲ列記スヘシ  
 土地目錄

地番	地目	面積	用途
何所何番 田	二段五畝	大字何々何某ニ小作料何石ニテ小作セシム	
備考	立木ニ付テモ本例ニ倣ヒ適宜目錄ヲ調製スヘシ		
所在	種類	棟數及各建坪	用途
何所何番 木造平家建	一棟二十五坪	一棟十二坪	村役場廳舎ニ使用ス

建物目錄

備品目錄

品目	數量	用途
金庫	一	收入役用
椅子(革張)	三〇	議事堂ニ使用ス
唧筒	一	

有價證券、現金目錄

種別	券面、枚數又ハ通帳數	金額面又ハ現在高	備考
滋賀縣農工銀行債券	五十圓券十枚	五百圓	某銀行保管預トス
五分利公債	百圓券十枚	千圓	某基本財產ニ屬スルモノ
特別五分利公債	百圓券十枚	千圓	
合計			



現金	三百十五圓	合計	三百十五圓	郵便貯金通帳	三百五十圓	其基本財産ニ屬スルモ
				何々銀行預金	七百五十圓	
				小口當座通帳	二千圓	
				定期預金證書	同	

(第四例)

演述書

一、舊道路敷設ノ件  
 本村大字何々ヨリ大字何々ニ通スル里道改修ノ結果不用ニ  
 歸シタル舊道路敷ハ國ヨリ無償讓與ヲ受クル見込ヲ以テ目  
 下其筋ニ申請中ニ屬ス  
 一、造林ノ件  
 未著手事項

本村基本財産造成ノ目的ヲ以テ大字何々有山林何町歩ニ地  
 上ノ權ヲ設定シ杉及扁柏ヲ植栽スルニ至ラサレトモ本春其ノ豫  
 會ノ議決ヲ經タリ未タ著手スルニ至ラサレトモ本春其ノ豫  
 定數ヲ植栽スル見込ナリ  
 一、小學校舎改築ノ件  
 何々尋常高等小學校舎ハ明治年ノ建築ニシテ腐朽、  
 破損ノ個所尠カラズ此ノ上修繕ノ見込ナキニヨリ改築ノ必  
 要アリ且學齡兒童ノ増加ニ伴ヒ教室ノ増加ヲ要スルヲ以テ  
 明年度ニ於テ教室一棟増加ニ見込ナリ然シテ是等ノ財源ハ  
 一部ヲ有志者ノ寄附金ニ俟チ他ハ總テ縣教育資金借入レノ  
 見込ナリ

(第五例)

現金目錄

一金 何 程

現在高

村議入出ニ屬スル分  
 何々基本財産ニ屬スル分  
 何々水利組合ニ屬スル分  
 國稅金ニ屬スル分  
 縣稅金ニ屬スル分

(第六例)

現金目錄  
 一金 何 程  
 何 何 程  
 何 何 程  
 何 何 程  
 以上 程







事ノ具狀ニ依リ其ノ事件ヲ管理ス  
ヘキ郡長ヲ指定スヘシ

**第二百五十三條** 府縣知事又ハ府縣參  
事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數  
府縣ニ涉ルモノアルトキハ內務大  
臣ハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ其  
ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事又ハ  
府縣參事會ヲ指定スヘシ

**第二百五十四條** 第十一條ノ人口ハ內  
務大臣ノ定ムル所ニ依ル

**第二百五十五條** 本法ニ於ケル直接稅  
及間接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏  
大臣之ヲ定ム

**第二百五十六條** 町村又ハ町村組合ノ  
廢置分合又ハ境界變更アリタル場  
合ニ於テ町村ノ事務ニ付必要ナル  
事項ハ本法ニ規定スルモノ、外勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二百五十七條** 本法ハ北海道沖繩縣  
其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ



之ヲ施行セス  
前項ノ地域ニ付テハ勅令ヲ以テ別  
ニ本法ニ代ハルヘキ制ヲ定ムルコ  
トヲ得

附 則

**第二百五十八條** 本法施行ノ期日ハ勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム

**第二百五十九條** 本法施行ノ際現ニ町  
村會議員、區會議員又ハ全部事務  
ノ爲ニ設クル町村組合會議員ノ職

ニ在ル者ハ從來ノ規定ニ依ル最近  
ノ定期改選期ニ於テ總テ其ノ職ヲ  
失フ

**第六十條** 舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處

セラレタル者ハ本法ノ適用ニ付テ  
ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ  
處セラレタル者ト看做ス  
但シ復權ヲ得タル者ハ此ノ限ニ在  
ラス

舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ハ本法ノ適  
用ニ付テハ禁錮以上ノ刑ト看做ス



第六十一條 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

---



○明治四十三年六月三十日 本縣訓令第四五號

市町村其他公共團體ニ於ケル地租、營業稅、所得稅ノ附加稅及段別割制限外若ハ間接國稅附加稅ノ賦課又ハ特別稅ノ新設、增額、變更ニ關スル議決ノ許可稟請ニ添付スヘキ書類ハ左記樣式ニ準據シ調製スヘシ

追テ從前ノ訓令及通牒等ニシテ本件ニ抵觸スルモノハ自然消滅シタルモノト心得ヘシ

一 歳入一覽表 (別紙第一號樣式)

一 歳出一覽表 (別紙第二號樣式)

歳出一覽表ハ經濟ヲ異ニスルモノニ在リテハ各別ニ之ヲ調製スヘシ

第二回以後ノ稟請ニハ前回稟請ノ際ニ添付シタル歳出一覽表ハ添付ヲ要セス

財源ヲ特定シタル費目ニ付テハ摘要欄内ニ其財源ヲ付記スヘシ

一 地租、營業稅、所得稅ノ附加稅及段別割ノ制限外賦課又ハ特別稅若ハ間接國稅附加稅ノ賦課ニ關スル議決書體本及其ノ理由書

議決書ハ別紙第三號樣式ニ依リ調製シ特別稅ノ增額、變更ニ在テハ其旨ヲ明示スヘシ

一 地 調 益 (第四號樣式)

但シ附加稅ノミノ制限外課稅許可稟請ノ場合ハ本租ヲ超過スル場合ニ限ル







備考

從前議決ノ地分租宅地分租地租若干金若干圓  
内許可濟金若干圓  
稟請中金若干圓  
此賦課金若干圓  
若賦課金若干圓  
他ハ此例  
ト載スルコ

金若干圓  
地租若干圓  
内許可濟金若干圓  
此賦課金若干圓  
若賦課金若干圓  
他ハ此例  
ト載スルコ

上欄ノ各  
課目トス

五條第一項  
ノ費用ニ  
對スル  
入内ス  
ルコト

四







會議費	議員實費辨償額、書記給料、印刷料、筆工料、消耗品費、雇給、通信費、
土木費	道路橋梁各修繕費、堤防修繕費何圓、用惡水路修繕費何圓、樋門修繕費何圓
教育費	教員給料、同恩給金、備品費、消耗品費、修繕費、
衛生費	種痘費何圓、傳染病豫防費何圓、
救助費	貧民救療費、貧民救助費、
警備費	消防費、水防費何圓、
勸業費	勸業會費、害蟲驅除費、
公債費	某年度起債ノ内本年度償還元利金何圓
諸稅及負擔	地租、地租割、郡費負擔、何町村組合費負擔、
豫備費	豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツヘキ分

計	臨時費	計
教育費	何々、何々	
土木費	何々何圓、何々何圓	
合計		

凡例

一四十一年法律第三十七號第五條第一項及第二項ニ依リ制限外課稅ヲ爲シ得ヘキ費目ニ付テハ其豫算ノ金額ヲ摘要欄ニ記載スルモノトス  
 一追加豫算ノ分ハ別ニ調製スヘシ

第三號



滋賀縣某市(某郡某町(村)(某郡某町(村)(某區))會議決書謄本

本市(町、村、本市)費支辨ノ爲メ左ノ課率ヲ以テ(左ノ課率ノ範圍内ニ於テ別ニ議決ノ上)地價割段別割所得稅附加稅營業稅附加稅ヲ賦課追加賦課スルモノトス

一地 價 割

宅地地租金壹圓ニ付金若干(以內)  
 田畑地租金壹圓ニ付金若干(以內)  
 其他地租金壹圓ニ付金若干(以內)

一段 別 割

田(畑)一段歩ニ付金若干(以內)  
 何々 一段歩ニ付金若干(以內)

一所得稅附加稅

本税金壹圓ニ付金若干 (以內)

一營業稅附加稅

本税金壹圓ニ付金若干 (以內)

但シ明治何年度分(自明治何年度至明治何年度分)

明治何年何月何日議決

凡例

一課率ハ厘位以下忽位ニ止ラサルトキハ四捨五入ノ法ヲ以テ忽位ニ止ムルモノトス

一一部賦課ニ在テハ賦課ノ區域及課率ヲ不均一課率ノ賦課ニ在テハ其課率ヲ明記スルモノトス  
 四十四年八月 地第二九七四號通牒  
 自今課率ヲ定ムルニ當リ厘位未滿ノ數アルトキハ之ヲ切捨テ又ハ切上ケル等便宜課率ヲ厘位ニ止ムルモ差支  
 ナシ

第四號

地 益 調			一段歩當			
地 目	收 得 物 量	收 得 價 格 又ハ收 得 金	地 租	府 縣 稅 市 町 村 稅 其 他 負 擔 額	耕 作 費 等	純 益
田						
畑						
同						
同						







償還ノ財源	償還終了ノ限ノ	備考	二、償還年次表			
			年次	元金償還額	利子支拂額	計
明治何年	同何年	同何年	同何年	同何年	同何年	
合計						

第六號

特別税ニ關スル收支調

一、木材川下税ニ關スル收支調ノ例

見積價格

何程

木材ノ種類尺ノ又ハ板ノ平均等材積ヲ課税標準別ニ詳記スルコト

見積經費

何程

丙

公課

何程

公課以外ノ經費

何程

殘ノ

何程

稅率

何々ニ付(標準別ニ)何程

國稅何程、縣稅何程  
市町村稅何程

備考

稅率ノ最馬ノ木材又ハ板類等ニ付推定掲記スルモノトス

二、平均戶別割ニ關スル收支調ノ例

所得金

何程



經 費 何 程  
 稅 率 何 程

備考

所得ノ最モ少キモノニ付調査スルモノトス  
 平均戸數割等之ニ準ス  
 經費ニ付代書人稅ニ關スル調ノ備考ニヨルヲ要ス

凡例

- 一 豫算ノ議決二回以上ニ涉リタルトキハ今回議決ニ係ル分ヲ墨書シ從前議決ニ係ル分ヲ朱書スヘシ
- 一 其他ノ收入欄ニハ課稅外一切ノ收入即財產ヨリ生スル收入使用料及手数料、國庫及府縣交附金、雜收入ヲ合計シテ記入シ其內譯ヲ記載スヘシ
- 一 特別稅中市制第二百二十二條町村制第二百二十六條ニ依リ許可ヲ要セスシテ從前ノ儘存置シタルモノハ特別稅目ノ肩書ニ「存置」ノ二字ヲ票記スヘシ
- 一 地價割ノ附記ハ第一回議決ノトキハ甲號ニ依リ第二回以後ノトキハ乙號ニ依ル可シ但シ從前ノ議決二回以上ニ

- 一 涉リタル場合ニ於テ前後地租額ヲ異ニスルトキハ附記ヲ各別ニ記載シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ今回ノ議決ト從前ノ議決ト地租額ヲ異ニスル場合其事由ノ記載方モ亦同シ
- 一 一段別割ノ附記及備考ノ記載方ハ前項ニ準ス
- 一 營業稅、所得稅ノ附加稅又ハ間接國稅附加稅ノ附記ハ地價割ノ例ニ依ル
- 一 市町村內ノ各部賦課ノ率ヲ異ニシ又ハ負擔ノ區域ヲ異ニスルトキハ歲入一覽表ハ第二例ニ依リ負擔ノ同シ區域毎ニ調製スヘシ
- 一 一部賦課及不均一課率ノ賦課ニ付キ許可ヲ受ケルコトヲ要スルモノハ許可ヲ受ケタル旨及年月日ヲ備考ニ記載スヘシ

●大正八年十月二十四日 地第二八三四號 內務部長 各都市長宛(內務大藏兩省局長通牒發 地第一七八號)

市町村ニ於ケル制限外課稅等ノ場合基本財産蓄積財源ノ件通牒

標記ノ件從來屢々通牒ノ次第モ有之候處自今左記各號ニ依リ御取扱相成度

記

- 一、地租營業稅所得稅附加稅並ニ反別割ノ課率カ法定制限率ノ二倍ヲ超ユルトキハ基本財産ノ蓄積又ハ積戻ヲ停止シ負擔輕減ニ充ツルコト但之レカ財源ヲ指定寄付又ハ基本財産ヨリ生スル收入ニ依ルモノハ此限リニ在ラス此場



合ニハ其財源ヲ課税ノ稟請書ニ明記スルコト

二、追加賦課ノ爲メ前項ノ限度ヲ超ユル時從前議決ニ基キ既ニ蓄積若クハ積戻ヲ執行シタルモノニアリテハ停止ヲ要セサルモ此場合ニハ既ニ執行済ノモノナルコトヲ課税稟請書ニ明記スルコト

三、第一項ハ一部賦課ニハ適用セス不均一賦課ナルトキハ平均課率ニ付之レテ適用ス

四、本通牒ニ抵觸スル從前ノ通牒ハ自今消滅トス

●大正八年八月十三日 地發第二〇八號 內務部長 各郡市長宛

制限外課税ニ關スル件通牒

町村ニアリテハ基本財産ノ蓄積ヲ停止スルトキハ制限外課税ノ必要ナキニ至ル向モ可有之ト存候然ルニ一面基本財産蓄積條例ニ於テ制限外課税ヲ爲シ又ハ特別税ノ新設又ハ増額ヲ爲シタルトキニアラサレハ蓄積ヲ停止シ能ハサル條項ヲ有スル場合此「爲シタルトキ」ヲ廣義ニ解釋シ「爲サ、ル可カラサル事由ノ生シタルトキ」ヲ含ムコト、シ蓄積ヲ停止シ得ルコトニ應議決定候條右ニヨリ夫々御措置相成度

●大正九年四月九日 地第一四四〇號 內務部長 各郡市長宛（內務省地方局長通牒發地第五八號）

制限外課税ニ關スル件通牒

市町村ニ於テ明治四十一年法律第三十七號第五條第二項中傳染病豫防ニ關スル費用ヲ目的トシテ制限外課税ヲ爲ス

場合ニ於テ其歲出額ニ對スル縣ノ傳染病豫防費補助金ニ相當スル金額ニ就テハ之レテ制限外課税ニ求メサルコトニ取扱居候處精算補助ノ結果翌年度ニ於テ收入スル補助金ニ相當スル額ノ財源ヲ戶數割ノ附加税ニ求メントスルトキハ負擔ノ偏重ヲ來シ他税トノ均衡ヲ得サルノ事實アル場合ニ於テハ之レカ財源ヲ制限外課税ニ求メ置キ實際ノ收入アリタル翌年ニ於テ制限外課税ニ依ル負擔ノ輕減ヲ圖ルコトニ措置スルハ已ムヲ得サルモノト認メラレ候ニ付將來右趣旨ニヨリ負擔ノ均衡ヲ失セサル様留意監督セラル、ト共ニ本文ノ趣旨ニヨリ制限外課税ヲ爲スモノニ在リテハ該稟請進達ノ際其事情副申相成度

●明治四十四年 本縣訓令第二十三號

市町村印章規程左ノ通之ヲ定ム

市町村印章規程

第一條 市役所及町村役場印ハ方一寸二分（曲尺トス以下亦同シ）トシ「滋賀縣何郡（市役所）何町（村）役場」ト彫刻スヘシ

第二條 市長ノ職印ハ方七分トシ「滋賀縣何市長之印」ト彫刻スヘシ

町村長、市參與、助役、收入役、副收入役及收入役代理者ノ職印ハ方六分トシ「滋賀縣何町（村）長（市參與）市町村助役（收入役、副收入役、收入役代理者）之印」ト彫刻スヘシ



第二條ノ一 市町村長ハ徵稅傳令書、徵稅令書、納額告知書又ハ納付書ニ發付年月日及市町村長名ヲ記載シ且其ノ名下ニ前條ノ印ヲ押捺スルニ代ヘ甲號式ノ印章ヲ使用スルコトヲ得

收入役又ハ副收入役若ハ收入役代理者ハ領收證書ニ領收年月日及領收者名ヲ記載シ且其ノ名下ニ前條ノ印ヲ押捺スルニ代ヘ乙號式ノ印章ヲ使用スルコトヲ得

甲號



楕圓形ニシテ縱直徑八分  
横直徑一寸二分トシテ中  
央ノ數字ハハ發付年月日  
ヲ示スモノナルニ依リ自  
在ニ差換ヲ爲シ得ル仕組  
ト爲スヘシ

乙號



圓形ニシテ直徑九分トシ  
中央ノ數字ハ領收年月日  
ヲ示スモノナルニ依リ自  
在ニ差換ヲ爲シ得ル仕組  
ト爲スヘシ

第三條 印章ニ彫刻スヘキ字體ハ楷書タルコトヲ要ス

附 則

第四條 本規程施行ノ際現ニ使用スル印章ハ改刻ヲ要スルトキニ至ル迄之ヲ使用スルコトヲ得  
第五條 明治二十七年八月滋賀縣訓令第六十五號ハ之ヲ廢止ス

●明治二十二年四月十二日 縣訓令第三十五號

町村費ニ對シ金穀物件ヲ寄附シタルモノ其寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テ其金穀物件處分方左ノ通之ヲ定ム

第一條 一旦使用ノ後寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依リ其事業又ハ費途ニ最モ近似ノ事業ニ充用シ若クハ寄附者ニ還付スルコトヲ得

同上ノ金穀物件ニシテ未タ使用スルニ至ラスシテ寄附者指定ノ事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ之ヲ寄附者ニ還付スヘシ

第二條 元金又ハ原物ヲ委託シ其收得ヲ寄附シタルモノ若クハ元金又ハ原物ヲ据置トナシ其收得ヲ使用スルノ方法ヲ以テ元金又ハ原物ヲ寄附シタルモノ其事業又ハ費途ノ廢絶シタル場合ニ於テハ其元金又ハ原物ハ之ヲ寄附者ニ還付シ其現存ノ收得又ハ之ヲ以テ支辨シタル物件ハ前條ニ依リ處分スヘシ

第三條 寄附ノ金穀物件ニシテ其處分方ニ付特別ノ約束ヲ付セルモノハ各其約束ニ依ル



大正九年八月廿二日印刷  
大正九年八月三十日發行

滋賀縣廳地方課員

編輯人

縣屬 早川

清

三

縣屬 石川

金

藏

發行兼印刷人

植苗

寅

吉

京都市二條通高倉東入觀音町

印刷所

正文舍

印刷

所

京都市二條通高倉東入觀音町

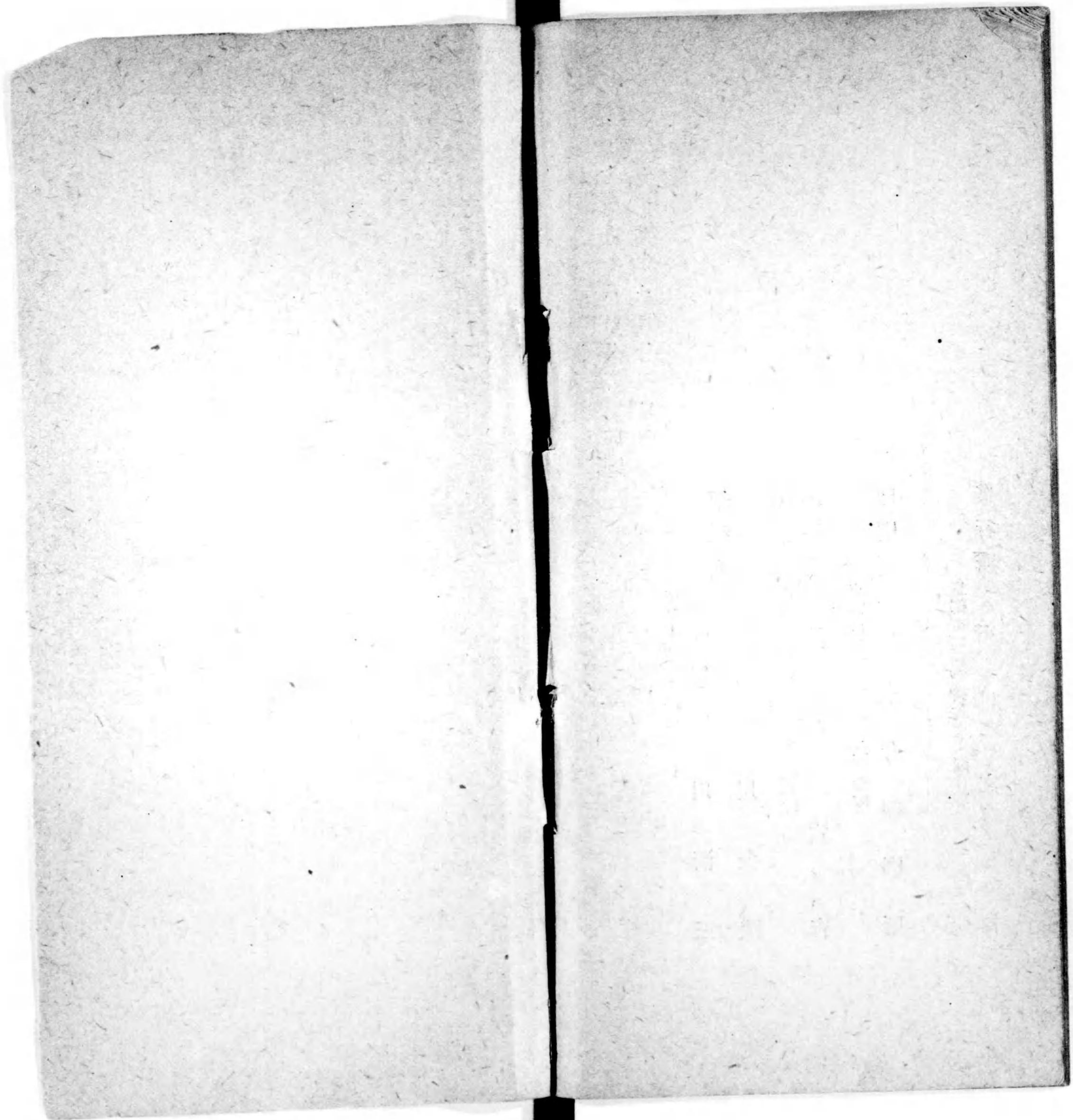
發行所

正文

文

舍







終

